

野村証券  
 フィデューシャリー・マネジメント部  
 木須 貴司

## 確定拠出年金専用ファンドの動向(2019年3月)

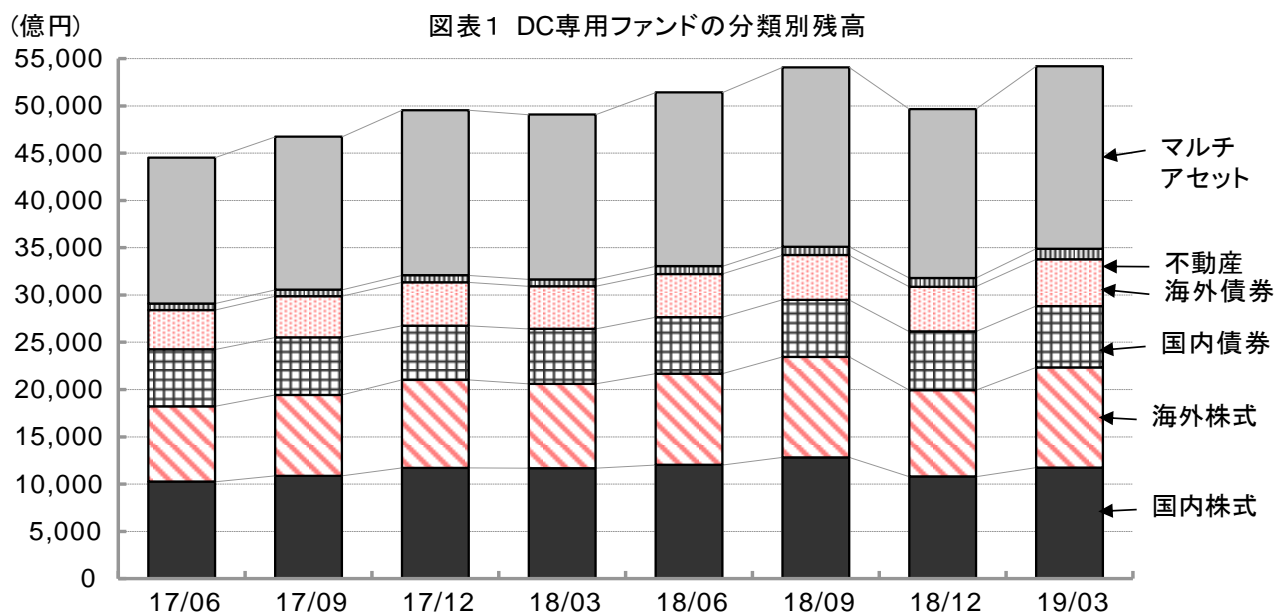
2018年度第4四半期の確定拠出年金専用ファンドの残高は5兆4,241億円となり、株価上昇、金利低下の影響を受け、残高は増加しました。収益率をみるとすべての資産がプラスとなり、海外株式や不動産は10%を超える収益率となりました。資金流入をみると、確定拠出年金専用ファンド全体に当四半期で314億円が流入しています。分類別では、マルチアセット型への資金流入が最も多く、159億円が流入しました。その一方で、国内株式型は、12億円の資金流出となりました。

### 確定拠出年金専用ファンドの残高

2018年度第4四半期(1月~3月)の確定拠出年金(以下、DC)専用投信の残高は5兆4,241億円と、株価上昇と金利低下の影響を受け、前四半期から9%程度増加しました(図表1)。

ほぼすべての資産が増加し、特に残高の上昇幅が大きかったのは、不動産(21%増加)と海外株式(16%増加)でした。また、マルチアセットもリスク性資産の上昇により8%増加し、残高は1兆9,301億円となりました。

分類別残高構成をみてみると、引き続きマル



出所)NRI Fundmarkより野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

チアセット型の割合が最も高く、全体の35.6%を占めています。マルチアセット型は、主にバランス型が中心となっています。今四半期は、内外株式の残高が増加したため、マルチアセット型の比率は、前四半期から低下しました。

次に、株式型ファンドと債券型ファンドという切り口で残高をみてみましょう。株式型(国内株式型と海外株式型)と債券型(国内債券型と海外債券型)の残高割合はそれぞれ41.2%、21.1%となり、前四半期と比べて、前者は1.1%増加、後者は0.9%低下しています。

また、国内資産(国内株式型と国内債券型)を中心に運用するファンドと海外資産(海外株式型と海外債券型)を中心に運用するファンドに分けてみると、国内資産を中心に運用するファンドの残高割合は、33.6%と、前四半期に比べ0.6%減少しています。一方、海外資産を中心に運用する

ファンドは、前四半期から0.8%増加し、28.7%となっています。国内株式よりも海外株式の方が上昇率が大きかったことから、このような結果となりました。

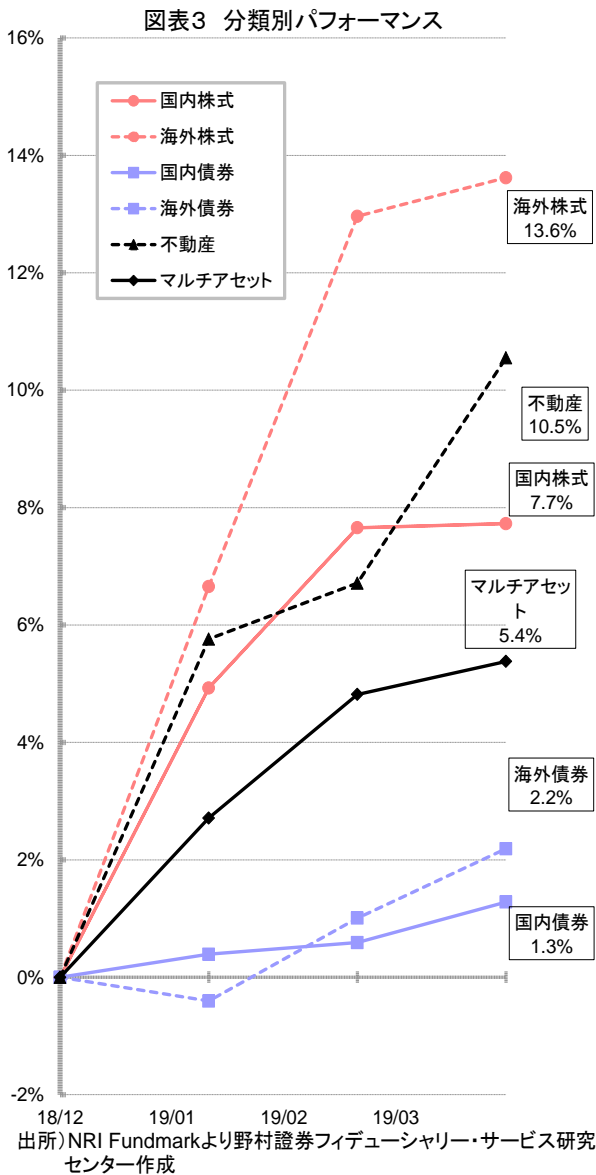
さらに、株式ファンド(国内株式型と海外株式型)と債券ファンド(国内債券型と海外債券型)を対象にアクティブ型とパッシブ型に分けてみると、パッシブファンドの残高割合は76.0%となり、前四半期から0.2%低下しました。

図表2 DC専用ファンドの分類別残高(億円)

	17/06	17/09	17/12	18/03	18/06	18/09	18/12	19/03
国内株式	10,258	10,861	11,715	11,681	12,030	12,826	10,797	11,731
アクティブ運用	3,833	4,104	4,490	4,484	4,590	4,870	3,973	4,321
パッシブ運用	6,425	6,757	7,226	7,197	7,440	7,955	6,824	7,409
海外株式	7,976	8,553	9,304	8,921	9,646	10,623	9,145	10,610
アクティブ運用	1,782	1,897	2,113	2,018	2,175	2,295	1,941	2,268
パッシブ運用	6,194	6,656	7,191	6,903	7,471	8,328	7,203	8,342
国内債券	6,017	6,113	5,719	5,821	5,988	6,031	6,200	6,479
アクティブ運用	857	864	867	878	896	895	913	950
パッシブ運用	5,160	5,249	4,852	4,943	5,092	5,136	5,287	5,529
海外債券	4,156	4,332	4,611	4,487	4,566	4,741	4,734	4,948
アクティブ運用	527	538	547	523	525	538	532	553
パッシブ運用	3,628	3,794	4,064	3,965	4,041	4,203	4,201	4,395
不動産	690	698	735	737	818	884	931	1,131
マルチアセット	15,441	16,177	17,456	17,424	18,369	18,968	17,862	19,301
バランス型	13,502	14,134	15,033	14,928	15,642	16,327	15,234	16,444
ターゲットイヤー型	251	264	463	465	486	340	354	369
アセットアロケーション型	1,687	1,780	1,959	2,031	2,240	2,301	2,274	2,488
残高合計	44,580	46,775	49,583	49,110	51,456	54,113	49,709	54,241
残高割合								
国内株式	23.0%	23.2%	23.6%	23.8%	23.4%	23.7%	21.7%	21.6%
海外株式	17.9%	18.3%	18.8%	18.2%	18.7%	19.6%	18.4%	19.6%
国内債券	13.5%	13.1%	11.5%	11.9%	11.6%	11.1%	12.5%	11.9%
海外債券	9.3%	9.3%	9.3%	9.1%	8.9%	8.8%	9.5%	9.1%
不動産	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%	1.6%	1.6%	1.9%	2.1%
マルチアセット	34.6%	34.6%	35.2%	35.5%	35.7%	35.1%	35.9%	35.6%

出所)NRI Fundmarkより野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。



分類別パフォーマンスの推移

図表3は2018年度第4四半期におけるファンド分類別累積投資収益率の推移です。この四半期では、1～2月に大きく株価が上昇し、国内株式は7.7%、海外株式も13.6%の収益率となりました。また、前四半期の反動から、内外株式いずれもアクティブ運用のパフォーマンスがパッシブ運用のパフォーマンスを上回りました。国内株式ではアクティブファンドがパッシブファンドを0.36%、外国株式ではアクティブファンドがパッシブファンドを1.53%上回りました。ただし、2018年度通期では、アクティブファンドは、国内株式では、3.2%、外国株式では0.12%、パッシブファンドを下回るパフォーマンスとなりました。

マルチアセット型についても株価上昇の影響を受け、5.4%とプラスの収益率となりました。国内不動産(REIT)は、株価上昇と金利低下の影響を受け、10.5%の収益率となりました。

また、国内債券、海外債券も金利低下の影響を受けて、収益率はそれぞれ1.3%、2.2%とプラスになりました。海外債券については、為替がやや円安となったことの影響も受けました。

分類別資金純流入額の推移

図表4は、2017年度第4四半期から当四半期までのファンド分類別の純流入額(設定額一解約額)の推移を表したものです。

図表4 DC専用ファンドの分類別資金純流入額(億円)

	18/01～ 18/03	18/04～ 18/06	18/07～ 18/09	18/10～ 18/12	19/01～ 19/03
国内株式	520	291	100	389	97
海外株式	281	300	277	279	208
国内債券	82	158	104	92	198
海外債券	75	92	79	70	109
不動産	10	32	51	60	98
マルチアセット	522	751	453	454	471
資金純流入合計	1,488	1,624	1,064	1,344	1,182

出所)NRI Fundmarkより野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

当四半期の純流入額は前年同期(前年度の第4四半期)に比べると305億円減少し、1,182億円となりました。2018年第3四半期と比較しても資金純流入は鈍化しました。前年度に大きく資金流入があった反動と見られます。

分類別に資金流入額をみると、国内株式への資金流出入が大きく減少した点が特徴的です。国内経済やグローバルな景気への慎重な見方がDC加入者に広がっている可能性があります。一方で、マルチアセットへの資金流入は、相対的に高い割合となっています。

— 次のお知らせ —

次号は

**5月20日(月)**

発行予定です。

#### 野村證券からのお知らせ

当社で取り扱う商品等へのご投資には、各商品等に所定の手数料等(国内株式取引の場合は約定代金に対して最大1.404%(税込み)(20万円以下の場合、2,808円(税込み))の売買手数料、投資信託の場合は銘柄ごとに設定された購入時手数料(換金時手数料)および運用管理費用(信託報酬)等の諸経費、等)をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失が生じるおそれがあります。商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

#### 野村證券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第142号  
加入協会/日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

弊誌の記事はバックナンバーも含めて野村年金マネジメント研究会のホームページでご覧頂けます。当ホームページは、年金スポンサー限定のサービスとなっております。ご利用を希望される方は、次のURLにてご登録をお願い致します。

<http://nenkin.nomura.co.jp>

編集: 野村證券フィデューシャリー・サービス研究センター、野村資本市場研究所

発行: 野村證券フィデューシャリー・サービス研究センター(野村年金マネジメント研究会事務局)

〒100-8130 東京都千代田区大手町2-2-2  
アーバンネット大手町ビル

TEL: 03 (6703) 3991 FAX: 03 (6703) 3981

Email: [nenkin@jp.nomura.com](mailto:nenkin@jp.nomura.com)

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村證券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村證券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。